

中学生の「居場所」について  
- 自尊感情・親和動機・対人疎外感との関連 -

立命館大学大学院  
応用人間科学科  
対人援助学領域  
発達・福祉臨床クラスター  
公文 優子

本研究は、中学生の「居場所」と中学生の心理状態の関連を検討することを目的とする。私たちが日常生活の中で感じる疎外感や孤独感は、時として「私の居場所がない」という言葉で表現される。ここでいう「居場所」とは物理的な空間だけを指すのではなく、心理的な意味での心の「居場所」を指す。まず現在の中学生に「居場所」が存在するか、存在しないかを確認する。次に「居場所」としてどこを選択するかにより、自尊感情、親和動機、対人疎外にどのような違いがあるかを明らかにする。「居場所」についての質問は「あなたの居場所はどこですか」「なぜそこを居場所と考えますか」「居場所に誰がいることを望みますか」「理想の居場所はどこですか」などである。それらのことから、現在の中学生がどのような「居場所」を持つことが、心理尺度とどのように関わるかを明らかにした。結果として「居場所」を有している中学生は9割以上であり、「居場所」として一番多く選択されたのは「自宅」であることなどが明らかとなった。